

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600941		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	養老の泉パートII		
所在地	豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	令和4年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/Index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4472600941-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 フェリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	令和4年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さん一人ひとりが、自由で安心した暮らしを送れるよう、自分たちのケアについて、常に会議で理念や行動目標にフィードバックするようにしている。職員それぞれが優しい言葉かけと、笑顔を忘れずに接するよう、心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「養老の泉パートII」は平成13年に開設された1ユニットの事業所です。隣接に先に開設された「養老の泉」とともに避難訓練や行事等合同で開催しています。その中で運営推進会議では、家族代表・市担当者・各地域民生委員・自治会代表・地域住民代表・ボランティア代表等常に13～14名の委員で定期開催され意見交換が行われています。会議の内容は詳細に議事録に書かれ、参加できない家族や職員にも分かり易く工夫された書き方になっています。管理者は職員を育てる取り組みとしてサービスの質・職員の質を今より向上するよう更に改善を進めており、研修・法人外事業所の運営や取り組みを勉強会等で紹介・提案することで、視野をひろめられるよう意識の向上に職員と話し合っており、前向きな取り組みを今後も期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示して職員全員が共有できるようにし、理念に沿ったケアを心がけている。	法人理念をもとに作成された事業所理念(や・さ・し・く)の頭文字を一つひとつ取った行動指針と事業所が求めるスタッフ像とともに、ホールの見やすい場所に掲示し共有しています。また、理念に沿ったケアが実現できているか会議で振り返り話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流につなげている。しかし、事業所の行事は、コロナ禍のため、地域の方に呼びかけが出来ていない。どう参加してもらうか、考える必要がある。	地域との交流は、運営推進会議での情報交換が主になっています。地域(自治会)から新聞やタオル等の差し入れ、事業所からは地域の草刈り・神社の清掃等職員が参加しています。コロナ終息後は利用者と直接交流を考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの研修等に参加しているが、地域の人々に向けていかされているかわからない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の事故報告書やヒヤリハット報告、近況報告等を行っている。また、事業所の取り組みを発表し、意見やアドバイスをいただき、サービスの向上に努めている。	運営推進会議を11月(第5回目)に通常開催のメンバーで事業所にて開催されました。利用者の近況報告・ヒヤリハット報告については、発生原因や対応・再発防止に向けた取り組み等について話し合い、貴重な意見を運営やサービスの質の向上に活かしています。	今後、ヒヤリハット報告と同様に身体拘束についても研修報告や事業所の方針を発信し運営の透明性を図ること、運営推進会議の議事録を家族全員に送り、事業所の取り組みを発信することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加していただいているが、今はコロナ禍のため、封書にて連絡している。	運営推進会議に市の担当者の参加があり、事業所の現状を共有し、得られた意見を運営に反映しています。電話・メールやFAX等で情報の連絡やオンライン研修、コロナ感染対策の指導等市との協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を事業所内で実施し、職員の共通認識に努めている。また、見守りの方法を徹底し、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。	身体拘束廃止・虐待防止の研修及び勉強会を年4~5回程行われています。職員は研修や社会の事例を通して、拘束が利用者にもたらす弊害について共通認識をもってケアにあたっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で定期的に勉強会を実施し、理解を深めている。利用者のかかわりの中、職員一人ひとりが意識し、個人レベルで虐待にならないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を実施し、学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり時間をかけ、丁寧に説明している。特に利用料金の事や、生活をする中で起こりうるリスク等の話を契約時に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、面会が厳しくなっている。直接電話連絡をし、近況報告の際、意見や要望を言ってもらえるようにしている。	面会が制限される中、広報誌やお便りによる利用者の近況報告にて、日頃の暮らしぶりを伝え、家族との電話の中で意見や要望を聴き取り運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面接時に、意見を出せるようにしている。現場に入り、日ごろからコミュニケーションをとるように心がけ、話しやすい環境作りを心がけている。	管理者は、ミーティングや日頃の会話の中から職員の意見や提案を話し合い、迅速な対応で運営に反映しています。日頃からコミュニケーションを取り、話し易い環境作りとともに個別面談の機会もあり、個人的な事情や働き方等を話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が頻繁に現場に足を運び、状況を把握し、職員に声をかけたりしている。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間計画を立てて実施している。しかし、コロナ禍のため、ネットを利用した研修を行っている。外部研修は、Zoomを使用しての研修が受講できるように、情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の認知症研究会に所属しているが、コロナ禍で今は勉強会に参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の希望を把握し、話し合い等で良好な関係づくりを心がけている。特に、本人が安心して過ごせるように働きかけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていることを理解し、どのような対応ができるか、事前にゆっくり話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、自宅や病院等に職員が会いに行くようにしている。さりげない会話の中でも、思いや状況等を確認するようにしている。信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活や会話の中からできることを見つけて共に行い、共に暮らしていく関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子や、体調の変化等を家族に連絡することで、職員と家族が協力して、共に本人を支えていく関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容院や美容院を利用していたが、コロナ禍のため、利用ができていない。家族との面会は予約等を取り、関係が途切れないように支援している。	馴染みの場所、人の情報はアセスメントや利用者・家族の会話の中から把握し、家族の協力を得て支援に繋げています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格、関係を把握し、全体が和やかに過ごせる場面作りをするように努めている。利用者同士のトラブルも生じないよう、注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られる際は、支援状況等を渡すと共に、情報を詳しく伝えている。サービスの利用が終了された方も、継続的な付き合いができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々関わりを持ち、声掛けをして言葉や表情などから本人が求めているものは何なのかを、それとなく確認するようにしている。利用者本位を心がけている。	利用者一人ひとりの思いや希望、意向について日々の会話の中から職員は意識して把握するよう努めています。実現困難な希望でも傾聴により、何度も聴く姿勢を示し、実現可能レベルを引き下げたり、代替案を出す等の話し合いをしています。	利用者の思いを常に把握することが不可欠です。職員全員が意識を高める取り組みを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴をフェースシートや家族からの聞き取りなどの情報があれば、記録し職員間できょう有している。日々の会話の中からも、これまでの暮らしの把握をするように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が、ミーティングや会議で本人の状況を理解していき、無理をせず出来ることをしてもらうように心がけている。その日の状態や様子を記録するように、心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化があれば会議で話を見直している。利用者主体の計画を立てるようにしている。	介護計画は、6ヶ月毎の見直しを基本としています。状態の変化等がある場合は適時見直しを行っています。サービスが適切に支援されているか、ケース記録にて評価しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録に、食事量や水分量、排泄等日々の様子や本人の言葉、行動を記録するようにしている。職員間で情報を共有し、ケアに活かすように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援を行っている。その時々生まれる希望にも柔軟に対応するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に行事の都度声掛けをし、交流を持っていたが、今はコロナ禍のため、交流できていない。ボランティアの方の訪問も、今はない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医について尋ねており、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。何かあれば、すぐにかかりつけ医に相談できる体制をとっている。	利用者の希望するかかりつけ医となっています。定期的な往診や通院で、利用者の主治医の健診を受けられています。緊急時も、すぐに対応できる体制が整えられ、変化があった時は家族に電話連絡し情報を共有・適切で安心した医療を受けられるよう支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人ケース記録に日々の状態を書いている。変化がある際は、新たに個々のモニタリング記録を取り、看護師と情報を共有している。異常に気付いた際は、すぐに報告し、対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては、サマリー等で様子を知らせている。入院中は、病院や家族と連絡を取り合い、本人の状況を把握し、できるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期と段階ごとに応じて家族や医師等を交えて話をし、方向性を共有するようにしている。また、記録をして職員と共有し、支援の統一を図っている。	終末期のあり方については、本人・家族の意向を第一に考え、状態の変化に合わせてその都度本人・家族・主治医・施設で話し合いを重ね、施設全体でその人らしい終末期を迎えて頂けるよう取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や、準備すべきことについて、消防署を招いて定期的に勉強会を行っている。また、緊急時対応についてのマニュアルも整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器訓練や通報訓練、避難訓練、避難経路の確認等を消防署の協力を得て定期的に行っている。地域の方やご家族に訓練の参加を呼び掛けている。	自然災害や水害等を想定され、定期的に訓練をされています。消防署の協力を得て訓練をされています。備蓄等は施設全体で担当者が管理し、常に数日間の備蓄があります。	以前のように地域の方の参加を得て、災害訓練が少しでも早く行われるよう希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけている。また、会議等で話し合い、言葉かけや対応に注意するよう努めている。	定期的にプライバシーについて研修をされ、意識を高く持ち接遇に取り組まれています。利用者の気持ちに寄り添い、声掛け等を大切にされ職員間で日頃から接遇について振り返りをされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声掛けをし、自己決定ができるようにしている。自分から要望を言えないような方には、表情や態度からくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。しかし、入浴や行事等は職員の都合になってしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた支援を行い、身だしなみがおろそかにならないよう注意している。本人の希望で家族に服を持ってきてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	直接の作業はできていないが、時折野菜の皮むき等をしてもらっている。後片付けを一緒に行っている。	朝食は、全て施設で作成提供しています。昼食・夕食は、配食サービスの食事を提供させて頂き、メニューの幅も広がり喜ばれています。イベント食は、利用者の希望を反映した食事になっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ケース記録に、一日の水分量や食事量がわかるように記録している。食事は冷凍調理済み食材を使っているため、バランスのとれた食事になっている。経口摂取が少なくなった方は、ご家族や医療機関に相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の必要性を職員全員が理解し、毎食後ケアを行っている。自分でできる方には声掛けにて自分でしてもらっているが、最終チェックは職員がしている。個々に応じて必要な物品をそろえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、さりげない声かけをするよう心掛けている。パッド類も個々に合わせ検討している。また、パット類の使用を減らす努力もしている。	職員全員で、利用者のその時々々の状況を把握し、自立支援を大切にされた取り組みを工夫されています。利用者の体調等を考慮し、職員全員で丁寧な支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による身体への影響は、職員も重要さを理解している。水分摂取をしてもらったり、軽い運動をするように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したくないときは、無理に勧めず日を替える等している。入浴しようと思ってもらえるような声掛けを工夫している。	利用者の体調や気分等を大切にされ、個々に沿った支援をされています。医師の協力を得ながら、肌に優しいケアを取り入れたり、常に希望を柔軟に取り入れ、入浴を楽しむ支援に反映される体制づくりに取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮し、ゆっくり休んでもらっている。昼間の活動を大串、夜間は安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬中の薬の説明書を、いつでも確認できる所に置いている。薬剤師さんが入り、個々の薬を一包ずつファイルしてくれているため、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来ることを把握し、家事をしてもらったり洗濯物をたたんでもらったりしている。個々の嗜好品も取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はドライブに出かけていたが、コロナ禍のため、あまり支援できていない。散髪等の外出だった。	コロナ禍の中、遠出は難しいものの、気分や体調を考慮しながら自然豊かな近所へ、散歩や日常的な外出支援は利用者の希望に沿い、柔軟に対応される支援体制が整えられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は事業所が行っている。購買車が来たとき等、個々に声をかけ、自分で買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から贈り物が届いたときや近況報告の連絡をした際、声をかけ電話で話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって室温や湿度に気を配り、居心地の良い環境づくりを心がけている。また、季節の花を置き、季節感を取り入れている。	利用者が、居心地よく過ごして頂けるよう工夫されています。その時々体調や気分等を大切にされ、その都度環境を整えています。温室管理や感染予防対策を工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室には、自由に行き来できるようにしている。また、利用者同士で話ができるよう椅子の位置を工夫している。ソファや畳のスペースもあり、自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や写真等、本人の馴染みのものを持ち込んでもらっている。個々の心地のよさに配慮した空間ができるように工夫している。	家族の協力を得ながら馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごして頂ける居室づくりに取り組まれています。安全・安心に過ごしていただけるための取り組みも常に工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを付け、個々の状態により安全な環境づくりを心がけている。		